

第 71 年度（令和 6 年度）事業報告書

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで

大阪府中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号

公益財団法人 篷 庵 社

第 71 年度（令和 6 年度）事業報告

（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）

I. 事業の概要

本財団は、薬学等の進歩発展に資するため必要な研究を行うものに対し、研究の助成並びに研究費の援助を行い、もって薬学の発展に寄与することを目的として、主要事業およびこれに付帯する事業として以下の活動を実施した。

II. 事業の実施状況

1. 研究助成金の交付

令和 6 年度の研究助成金として、研究助成（全国対象 20 件 1,500 万円）、および特別研究助成（近畿 2 府 4 県以西対象 8 件 3,000 万円）、計 28 件 4,500 万円を交付した。

1) 研究助成（75 万円/件・年）：

4 年目：5 件、 3 年目：5 件、 2 年目：5 件、 新規：5 件

計 20 件 計 1,500 万円

2) 特別研究助成

近畿 2 府 4 県（京都、大阪、滋賀、奈良、和歌山、兵庫の各府県及びそれ以西の

西日本（中国地方、四国地方、九州地方、沖縄県）対象：

（250 万円/件・年） 2 年目：4 件

（500 万円/件・助成期間 2 年、初年度に全額支給）新規：4 件

計 8 件 計 3,000 万円

総計 28 件 計 4,500 万円を交付した

各助成金の交付先は【別紙 1】の通り。

2. 令和 7 年度助成事業対象者の募集および審査・選考

1) 令和 7 年度特別研究助成

（1）募集テーマ等の決定

令和 6 年 5 月 28 日の第 1 回選考委員会・企画会議にて、令和 7 年度特別研究助成の募集テーマの選定および募集要項等の審議を行い、募集テーマを薬学系「創薬に資する挑戦的基礎研究」、医学系「創薬に資する病態解明研究」に決定し、募集することとした。募集方法については、募集要項を近畿 2 府 4 県（京都、大阪、滋賀、奈良、和歌山、兵庫の各府県及びそれ以西の西日本（中国地方、四国地方、九州地方、沖縄県）の大学等研究機関へ郵送および蓬庵社ホームページへの掲載により公示することとし、Web システムによる応募とした。

また募集期間を令和6年9月2日から10月31日とすることも決定した。これらについて令和6年5月31日に選考委員長から理事長へ答申し、同年6月6日開催の理事会にて承認可決した。

（2）募集および審査選考

令和6年9月2日から10月31日までの募集期間に薬学系24件、医学系31件、合計55件の応募があった。これらについて同年11月13日に選考委員長から選考委員に第一次審査としてWebシステムで書面審査を依頼し、令和7年2月27日開催の第2回選考委員会にて書面審査の結果を基に審議し、令和7年度助成者の選考等を行い、薬学系2名、医学系3名、計5名を助成候補者として決定した。結果について、令和7年3月4日に選考委員長から理事長へ答申し、同年3月10日開催の理事会にて承認可決した。

2) 令和7年度研究助成

（1）募集および第一次審査

令和6年3月25日理事長より外部理事及び評議員に令和7年度研究助成の候補者の選出を依頼し、名古屋大学、東京大学、帝京大学、熊本大学、東京慈恵会医科大学、東京理科大学等全国から7名の候補者が選出された。令和6年5月28日の第1回選考委員会・企画会議にてこれらの候補者の第一次申請書の審査を研究業績および当財団の目的に適う人物であるか等、以下のチェックポイントの観点から審議を行った。

- ・優秀な素質を有するが、財源不足等のため研究の継続が困難である研究者
- ・他からの助成を受けにくい薬学等の基礎研究を行なっている研究者
- ・特に若手で将来有望な研究者

審議の結果、5名を第二次審査の対象者として選定した。

以上の結果について、令和6年5月31日に選考委員長から理事長へ答申し、同年6月6日開催の理事会にて承認可決した。これら5名について同年8月5日に理事長より各選出者に第二次申請書の作成を依頼した。

（2）第二次審査及び選考

第一次審査にて決定された5名について、第二次申請書により書面審査を行い、その結果を基に令和7年2月27日開催の第2回選考委員会にて審議し、この5名を令和7年度研究助成の助成候補者とすることを決定した。以上の結果について、同年3月4日に選考委員長から理事長へ答申した。

令和7年3月10日開催の理事会にて、各候補者の選出者より研究概要及びチェックシート

【別紙 2】の内容、また当財団の目的に適った研究者であること等詳細に説明し質疑応答を行ったのち、理事会にて慎重に審議してこれら 5 名について令和 7 年度研究助成対象者として承認可決した。

3. 研究成果報告【別紙 3】

第 43 回研究助成発表会を令和 6 年 7 月 9 日、ヒルトン大阪（大阪府大阪市北区梅田 1 丁目 8-8）において開催した。

4. 設立 70 周年記念事業

薬学の領域において、これまでの研究の流れを変えるようなインパクトのある研究成果を上げて薬学研究に貢献された 2 名に対して蓬庵社賞を贈呈し、講演会を行った。

令和 6 年 7 月 8 日 於 ヒルトン大阪（大阪府大阪市北区梅田 1 丁目 8-8）

Ⅲ. 財団運営の概況

1. 理事会の決議事項

(1) 書面開催：令和 6 年 4 月 30 日（理事会決議があったものとみなされた日）

議題 1：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定の件

原案通り承認可決した。

議題 2：第 70 年度（令和 5 年度）事業報告の件

第 70 年度（令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）事業報告書について原案通り承認可決した。

議題 3：第 70 年度（令和 5 年度）決算書承認の件

第 70 年度（令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）決算について原案通り承認可決した。

(2) 令和 6 年 6 月 6 日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：第 70 年度（令和 5 年度）定期提出書類の件

原案通り承認可決した。

議題 2：令和 7 年度特別研究助成募集テーマ及び募集要項決定の件

原案通り、令和 7 年度特別研究助成の募集テーマを薬学系「創薬に資する挑戦的基礎研究」、医学系「創薬に資する病態解明研究」とすること等、承認可決した。

議題 3：令和 7 年度研究助成第一次審査の件

令和 6 年 5 月 28 日開催の選考委員会の決議通り、研究助成 5 名を原案通り承認可決した。

議題 4：学術委員選任の件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：特定費用準備資金取崩しの件

報告事項 2：理事長は令和 6 年度 1 回目の業務執行状況報告を行なった。

報告事項 3：その他

(3) 書面開催：令和 6 年 12 月 19 日（理事会決議があったものとみなされた日）

議題 1：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定の件

原案通り承認可決した。

議題 2：内閣府への事業内容変更届出の件

原案通り承認可決した。

(4) 令和 7 年 3 月 10 日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：助成事業拡大の件

公募型として新しいプログラムを追加すること、また現在の助成の名称変更等、原案通り承認可決した。

議題 2：第 72 年度（令和 7 年度）事業計画承認の件

第 72（令和 7 年度）事業計画として研究助成金の交付件数を 25 件とすること及び令和 7 年 7 月 4 日に第 44 回研究助成発表会を開催すること、また令和 8 年度助成の募集等を行うことを原案通り承認可決した。

議題 3：第 72 年度（令和 7 年度）収支予算承認の件

第 72 年度（令和 7 年度）収支予算について原案通り承認可決した。

議題 4：法人会計収益の公益目的事業への振替の件

原案通り承認可決した。

議題 5：資金調達及び設備投資の見込みの件

原案通り承認可決した。

議題 6：令和 7 年度特別研究助成 受領者決定の件

令和 7 年 2 月 27 日開催の選考委員会の決議通り、令和 7 年度新規助成者について特別研究助成 5 名を原案通り承認可決した。

議題 7：令和 7 年度研究助成 受領者決定の件

令和 7 年 2 月 27 日開催の選考委員会の決議通り、研究助成 5 名についても慎重審議の上、原案通り承認可決した。

議題 8：選考委員及び選考委員長選任の件

原案通り承認可決した。

議題 9：内閣府への事業内容変更届出及び選考基準・評価指標新設の件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：理事長は、令和 6 年度 2 回目の業務執行状況報告を行なった。

2. 評議員会の決議事項

(1) 令和 6 年 6 月 6 日定時評議員会

（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：議長選定の件

互選により選定した。

議題 2：議事録署名人選定の件

互選により 2 名を選定した。

議題 3：第 70 年度（令和 5 年度）事業報告及び決算書承認の件

第 70 年度（令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで）貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録等について原案通り承認可決した。

(2) 令和 7 年 3 月 10 日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：議長選定の件

互選により選定した。

議題 2：議事録署名人選定の件

互選により 2 名を選定した。

議題 3：第 72 年度（令和 7 年度）事業計画承認の件

第 72（令和 7 年度）事業計画として研究助成金の交付件数を 25 件とすること及び令和 7 年 7 月 4 日に第 44 回研究助成発表会を開催すること、また令和 8 年度助成の募集等を行うことを原案通り承認可決した。

議題 4：第 72 年度（令和 7 年度）収支予算承認の件

第 72 年度（令和 7 年度）収支予算について原案通り承認可決した。

議題 5：資金調達及び設備投資の見込みの件

原案通り承認可決した。

報告事項 1：助成事業拡大の件

報告事項 2：令和 7 年度特別研究助成・研究助成 受領者決定の件

報告事項 3：選考委員及び選考委員長選任の件

報告事項 4：内閣府への事業内容変更届出及び選考基準・評価指標新設の件

3. 報告事項

(1) 令和 6 年 6 月 10 日

日本薬学会 医薬化学部会主催の第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウムへ 30 万円の寄附を行った。

(2) 令和 6 年 6 月 17 日

行政庁（内閣府）へ第 70 年度（令和 5 年度）事業報告書および監査報告書を提出した。

(3) 令和 6 年 6 月 25 日

行政庁（内閣府）に令和 6 年 6 月 17 日付けで提出した書類について修正可能書類通知書が届き、「別表 F (1) 各事業に関連する費用額の配賦計算表（役員等の報酬・給与手当）」の算出方法を添付し修正届出を提出した。

(4) 令和 6 年 6 月 27 日

行政庁（内閣府）に令和 6 年 6 月 17 日付けで提出した書類について修正可能書類通知書が届き、「別表 A (1) 収支相償の計算（収益事業等の利益額の 50%を繰入れる場合）」の余剰金の取扱について具体的な費消計画を記載し修正届出を提出した。

(5) 令和 7 年 3 月 17 日

行政庁（内閣府）へ公益目的事業の内容の変更について変更届書を提出した。

(6) 令和 7 年 3 月 19 日

行政庁（内閣府）に令和 7 年 3 月 17 日付けで提出した書類について修正可能書類通知書が届き、指示があった追加書類を添付し修正届出を提出した。

(7) 令和 7 年 3 月 19 日

行政庁（内閣府）へ令和 7 年度事業計画書および収支予算書等の定期提出書類を提出した。

4. 運営体制の充実を図るための取組

- ・内閣府担当官からの意見を参考に、助成事業の公平性、透明性を明確にするため、明文化していなかった、「研究助成選考基準」「各助成の評価指標」を作成した。

以上

令和6年度研究助成金交付先一覧表

◆ 研究助成 (1件 75万円×20件= 計 1,500万円)

*所属は申請時のもの

助成	所 属 (申請時)	研 究 者 名	研究テーマ
4 年 目	大阪薬科大学 病態分子薬理学研究室	大喜多 守	急性腎障害に併発する血管機能障害に対する薬理学的研究
	北海道大学大学院先端生命科学研究院	北村 朗	神経変性疾患の核酸医薬創薬に向けたシャペロン RNA の実証
	富山大学 学術研究部 薬学・和漢系	久米 利明	新規アルツハイマー病モデルマウス由来組織を用いたタンパク質プロファイリングによるバイオマーカーの探索ならびに薬効予測系の開発研究
	岐阜薬科大学	田原 耕平	粘膜バリア突破型微粒子による革新的 DDS の創製と細胞機能制御
	三重大学 大学院医学系研究科 統合薬理学分野	西村 有平	データ駆動型アプローチとゼブラフィッシュを用いた肝庇護薬探索
3 年 目	東京大学 大学院薬学系研究科	上野 匡	機能性小分子を応用した細胞内シグナル伝達の操作と可視化
	広島大学 両生類研究センター 発生研究部門 発生再生シグナル研究ユニット	鈴木 厚	誘導因子シグナルによる胚発生と組織再生の制御機構
	富山大学 学術研究部 薬学・和漢系	南部 寿則	高反応性スピロシクロプロパンの開裂一環化反応を用いる新規環状化合物合成法の開発とその応用
	大阪大学大学院 基礎工学研究科	久木 一朗	ねじれたパイ共役分子を用いた水素結合性キラル多孔質結晶材料の開発
	日本大学文理学部生命科学科	安原 徳子	核輸送因子 importin α の細胞内機能の切り替えとその生理作用の解明
2 年 目	徳島大学医歯薬学研究部 応用栄養学分野	瀬川 博子	成長・老化を制御するリン代謝調節機構の解明
	京都大学大学院医学研究科薬剤学/医学部附属病院薬剤部	中川 貴之	シュワン細胞を標的とした末梢神経再生に基づく末梢神経障害治療薬の探索
	高崎健康福祉大学薬学部・薬学科 分子動態制御学	中西 猛夫	肝物質動態の変化に基づく N A F L D の病態理解と診断法の開発
	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所	藤井 晋也	有機金属化合物の特性を利用した分子設計法の開発と医薬リード創出
	大阪大学大学院薬学研究科 生物有機化学分野	山口 卓男	創薬応用に向けた多機能人工核酸の開発
新 規	徳島大学 大学院医歯薬学研究部薬理学分野	池田 康将	鉄ストレス制御による慢性腎臓病の新たな治療戦略の創出
	北海道大学 大学院先端生命科学研究院	上原 亮太	染色体倍加による脈管内がん細胞凝集の分子機序と病理的意義の解明
	立命館大学薬学部	土肥 寿文	革新的メタルフリーカップリング戦略に基づく医薬分子合成法の開発
	大阪大学大学院工学研究科	平野 康次	光学活性含フッ素有機分子のケミカルスペース拡張を目指した不斉触媒の開発
	九州大学大学院薬学研究院	山田 健一	新規酸化リン脂質の探索・評価

◆ 特別研究助成（2年目：1件250万円×4件、新規：1件500万円×4件 合計3,000万円）

助 成		所 属（申請時）	研 究 者 名	研究テーマ
2 年 目	薬学系	大阪大学 大学院薬学研究科	尾花 理徳	個体恒常性の加齢性変容にも影響しうる新たな腎老化制御機構の解明
	薬学系	和歌山県立医科大学 薬学部	相馬 洋平	異常核タンパク質の化学変換を基盤とした認知症治療変革への挑戦
	医学系	理化学研究所生命機能科学研究センター 心臓再生研究チーム	木村 航	心筋ターンオーバーにおける低酸素シグナルの機能と加齢性心不全治療への応用
	医学系	島根大学 医学部 発生生物学	藤田 幸	加齢に伴う脳機能低下の分子機序解明
新 規	薬学系	京都大学 大学院薬学研究科	井貫 晋輔	自然免疫型 T 細胞の機能を利用した新たな創薬モダリティの創出
	薬学系	九州大学 大学院薬学研究科	矢崎 亮	非天然アミノ酸が拓く細胞内 PPI 標的中分子ペプチド創成
	医学系	熊本大学 大学院生命科学研究所（医学系）	諸石 寿朗	「抗原・アジュバント一体型糖鎖修飾金ナノ粒子」によるがん免疫療法の創生
	医学系	京都大学 医生物学研究所	木村 香菜子	HTLV-1 感染症征圧のための構造生物学的手法を用いた新規モダリティ開発

公益財団法人蓬庵社 XXX 年度研究助成申請書作成チェックシート

選出条件【必須】

満たされているかご確認ください。

● シオノギ製品を用いた臨床研究を含まない研究であること	☐
● 候補者の年齢は満 55 歳以下であること	☐

選出条件

以下について、いずれかの内容が記載されているかご確認ください。

※いずれかの項目に該当するものが一つでもあれば、対応する(1)～(3)のチェック欄にチェックを入れてください

(1) 優秀な素質を有するが、財源不足のため研究の継続が困難である研究者		☐
1	候補者の学歴及び職歴が助成対象として相応しいか。	
2	最近 5 年間の発表論文リストの内容が助成対象として相応しいか。	
3	本研究を実施するために使用する研究施設・設備等、現在の研究環境の状況に不足が生じているか。	
(2) 他からの助成が受けにくい薬学等の基礎研究を行っている研究者		☐
1	本研究は独立したテーマであり、助成の必要性・妥当性に問題ないか。	
2	本研究の全体構想及び研究目的について、特に次の点について焦点を絞り具体的かつ明確に記述されているか。 ①研究の学術的背景と現在の状況および、今後期待される成果 ②研究期間内に何をどこまで明らかにするのか	
(3) 特に若手の独立前後で将来有望な研究者		☐
1	候補者の年齢が特に若手の満 45 歳以下である。	
2	推薦者からみた候補者の研究遂行能力の高さ、研究分野で十分大きな役割を果たすと期待する理由の記述があるか。	
(4) その他 上記以外で当財団の目的に適った研究者・テーマである場合は、理由をお書きください		

推薦者は候補者と直接的な利害関係となる事実はありません。

推薦者：

第43回公益財団法人蓬庵社研究助成発表会

日 時： 令和6年7月9日(火)10時00分から16時30分

場 所： ヒルトン 大阪 ウィンドーズ

大阪府大阪市北区梅田1丁目8-8

10:00-10:05 ご挨拶 公益財団法人蓬庵社 理事長 武田 禮二

演 題 (講演20分、討論10分)

座 長

10:05-	1. 高歪み多環芳香族炭化水素の革新的合成 井川 貴詞 先生 (岐阜薬科大学 創薬化学大講座 薬品化学研究室)	小林 資正 先生
10:40-	2. 医薬資源の自動合成を志向したデータ駆動型精密有機合成反応開発 滝澤 忍 先生 (大阪大学産業科学研究所)	北 泰行 先生
11:15-	3. 中枢神経系グルタミン酸トランスポーター新規調節機構の検討 佐藤 薫 先生 (国立医薬品食品衛生研究所)	大和田 智彦 先生
11:45-	昼 食 休 憩	
12:35-	4. ヒト血液脳関門を知る、創る、操る： 物流システムの解明から『血液脳関門操薬』への展開 立川 正憲 先生 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬学域・DDS研究センター薬動力学部門)	寺崎 哲也 先生 代 理 玉井 郁巳 先生
13:10-	5. 核移行因子KPNA1による軸索輸送制御メカニズムと その生理的意義の解明 山田 雅己 先生 (福井大学学術研究院医学系部門・分子生体情報学分野)	米田 悦啓 先生
13:45-	《特別研究助成》 6. 生体内異種細胞間相互作用に着目したパーキンソン症候群 新規治療ストラテジーの創出 糸数 隆秀 先生 (大阪大学大学院医学系研究科 創薬神経科学共同研究講座/分子神経科学講座)	塩野義製薬(株) 玉野 竜太 氏
14:15-	休 憩	
14:35-	新 規 助 成 者 ご 紹 介	
14:45-	《特別研究助成》 7. 小胞輸送障害により生じる新規疾患の病態解明と、 幅広いリソソーム病治療法開発への応用 大友 孝信 先生 (川崎医科大学 医学部 分子遺伝医学教室)	塩野義製薬(株) 横田 慎一 氏
15:20-	《特別研究助成》 8. 細胞外微粒子による炎症応答を抑える高活性化化合物の機能解明と 間質性肺炎治療への応用 武村 直紀 先生 (大阪大学大学院薬学研究科)	塩野義製薬(株) 中野 祥行 氏
15:55-	《特別研究助成》 9. 線維化関連難治性疾患の創薬標的分子の同定とその治療応用 仲矢 道雄 先生 (九州大学大学院薬学研究院疾患制御学分野)	塩野義製薬(株) 加藤 秀昭 氏

前記のとおりご報告いたします。

令和7年6月

公益財団法人 篷 庵 社

理事長 武 田 禮 二

附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和7年6月

公益財団法人蓬庵社